

- ①支部名 島田支部
- ②論文名 工事施工の品質管理
- ③会社名 株式会社 町組
- ④執筆者名 杉本 猶通
- ⑤工事名 平成23年度〔第23-M2150-01号〕静岡空港ターミナル地区西側整備事業
- ⑥工事概要

格納庫用地基盤整備工	1 式
路床敷き均し整正工	7950 m2
地盤改良工	7960 m2
被覆盛土工	2140 m2
擁壁工	1 式
重力式擁壁工	24.8 m
プレキャストL型擁壁工	131.2 m
排水工	1 式
付帯工	1 式

位置図



・はじめに

本工事は静岡空港の格納庫基盤であり、特に品質が重要である。

路床は現地の軟岩切り土上に、15cm厚以上のセメント安定処理を設けるものとし、格納庫用地部の路床厚は1.0mであり、路床上面及び軟岩切り土面の設計支持力係数は $K_{75}=33\text{MN/m}^2$ 以上とする。セメント安定処理は支持力の確保と、軟岩のスレーキング問題に対するキャップ層とす

・スレーキング防止について

スレーキングとは岩が乾燥することから始まり、泥岩表面の初期乾燥により表面が亀甲状に割れはじめ、これが進展すると小さなサイコロ状に細変化する。例えば夏季の晴天時では一時間以内で岩盤表面のスレーキングが始まりその後、岩盤は降雨と晴天の繰り返しによって最終的には、土砂化する。

以上により本工事では、現状地盤掘削後、その日のうちに、プライムコートを行い、夜露、降雨、等を遮断しスレーキング防止を図った。又構造物の掘削に関しては、基礎碎石を均しコンクリートに置き換え、余掘り部分についてもコンクリートで補い、そして埋め戻しについては、外側をコンクリート内側をセメント改良土で行った。

プライムコート散布状況



・設計支持力の確保について

用地基盤掘削に於いて、軟岩の標高確認の為、試験掘削を縦断方向20m毎に行い、横断方向では、全域行った。そして平板載荷試験を1000/m²の割合で行い現況の軟岩層が設計支持力以上か確認した。それにより設計の切り土計画高を決定し、作業に取り掛かった。そこで場所によっては軟岩層が出ないところもあり、軟岩が出るまで掘削し品質確保に努めた。

セメント安定処理工及び、路床盛土工事に於いて、搬入した盛土材についてはその日のうちに所定の転圧を行い最適含水比を保つようにした。

・最後に

以上により今回の工事に於いては、スレーキング防止、設計支持力の確保は十分満足するものができました。社内的には報告、連絡、相談を行い、無事に工事を完工することができましたが、他現場、及び部外者にも相談できるよう心がけ向上したいと思います。